平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業
（発達障害理解推進拠点事業）
成果報告書（概要版）

実施機関名（国立大学法人群馬大学）

1．テーマ

大学資源を活用した発達障害理解推の取り組み

－群馬大学教育学部「子ども総合サポートセンター」機能活用による研修会，

事例検討会，授業作りを通した教職員における発達障害理解推進－

2．問題意識・提案背景

本事業の目的は，幼稚園入園から中学校卒業までの各段階に応じた発達障害やその疑いのある子ども一人一人への支援とその子どもたちを含む学習集団全体への支援の支援モデルを見出すことである。

平成 25 年度の事業においては，群馬大学教育学部附属小学校を拠点校としながら，本学教育学部に設置されている「子ども総合サポートセンター」の機能を活かして，研修会，事例を通した発達障害の理解・連携等を進めてきた。その結果として，大学の人的資源を活用して研修会や事例検討会を数多く開催することができた。特に研修会のテーマは，学校での 1 年間の指導を想定して「子ども理解から個別の指導計画作成，そして評価」に関連づけて，年間を通して進めてきた。

平成 26 年度の授業においては，引き続き大学資源を活かした研修会，事例検討会を継続するなかで教員研修プログラムを体系化した。加えて，発達障害の子どもだけでなくどの児童生徒もわかって参加できる授業として「学びのユニバーサル・デザイン」の授業作り，学校教育活動全体を通じた児童生徒への障害者理解の検討を行い，支援の必要な児童生徒達への集団全体に対する支援モデルを検討した。

3．拠点校について

○　拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人群馬大学	群馬大学教育学部附属小学校（ぐんまだいがくきょういくがくぶふぞくしょうがっこう）

○　理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人群馬大学	群馬大学教育学部附属幼稚園（ぐんまだいがくきょういくがくぶふぞくようちえん）
国立大学法人群馬大学	群馬大学教育学部附属中学校（ぐんまだいがくきょういくがくぶふぞくちゅうがっこう）

4．拠点校における取組概要

発達障害やその疑いのある子ども一人一人への支援と，その子どもを含む学習集団全体への支援を充実できるように，各種研修会を開催して発達障害児の特性や指導場面における具体的な留意点，ならびに「学びのユニバーサル・デザイン（ＵＤＬ）」の考え方に基づく授業の在り方等について理解を深めるようにした。平成 26 年度における主な取り組みは以下の通りであった。

１．研修会・セミナーの実施

（１）拠点校（校内）教職員向け研修会（理解推進地域への成果普及等のセミナー（以下，校外）と合同開催）：計３回

＊テーマ：個別の指導計画の作成・実施・評価について

（２）拠点校（校内）教職員向け研修会：１回

＊テーマ：支援の必要な児童のとらえ方

（３）保護者向け（校外セミナーと合同）：１回

＊テーマ：発達障害のある児童生徒の思春期における課題と家族支援

（４）校外での研修会（成果普及等のセミナー）：８回

２．事例検討会の実施（校内）：計５回

＊個別事例の検討会（２回），行動観察に基づく実態把握および個別の指導計画の検討（３回）

３．授業作り検討会・授業公開の実施：３回

＊「学びのユニバーサル・デザイン（ＵＤＬ：Universal Design for Learning)」の考え方に基づく授業作り

４．学校教育活動全体を通じた児童生徒への障害者理解

＊特別支援学校との交流及び協同学習の実施

５．研修プログラムの体系化

上記１－（１）（２）および２を通して「子ども理解から個別の指導計画作成・評価」に関する研修プログラムの体系化を図った。

5．主な成果

群馬大学教育学部附属小学校を拠点校としながら，本学教育学部に設置されている「子ども総合サポートセンター」の機能を活かして，大学の人的資源としての教育学部教員，医学部附属病院医師，他附属教員に協力を仰ぎながら，研修会，事例を通した発達障害の理解・連携等を進めてきた。その結果として，拠点校（校内）・理解推進地域（校外）合わせて 18 回の研修会・セミナー，事例検討会が実施できた（外部講師３名，学内講師：40 名）。また，拠点校（校内・校外との合同含む）での研修会参加者数はのべ 136 名，校外での研修会等の参加者数は 196 名であった。

これら研修会を通して「個別の指導計画作成と評価の流れ」に関する研修プログラムを３段階で体系化し，関連する個別の指導計画の作成・評価のための４つのワークシート（実態把握シート，児童のとらえのためのワークシート，個別の指導計画，指導の評価のためのワークシート）を作成した。今後，この研修プログラムを地域の学校へ実施していくことが可能となった。

また「学びのユニバーサル・デザイン（ＵＤＬ）」の考え方に基づく授業作りでは，３回の授業提示・公開授業を実施し，のべ 92 名の授業参観があった。アメリカの研究開発組織の一つであるＣＡＳＴ（Center for Special Applied Technology）が提唱したＵＤＬガイドライン（学習の提示，行動と表出，取り組みに関する多様な方法の提供）を踏まえて，すべての学習者のニーズにあった教育を作る枠組みとする手順を提案することができた。

さらに学校教育活動全体を通じた児童生徒への障害者理解では，群馬大学教育学部特別支援学校との交流及び協同学習の実施を計 36 回（１年生：２回，２年生：３回，３年生：１回，４年生：27 回，５年生：２回，全校：1 回）実施できた。

6．今後の課題と対応

今後の課題として２点挙げられる。１点目としては，「学びのユニバーサル・デザイン（ＵＤＬ）」の考え方に基づく授業作りの検証である。今年度の研究においてＵＤＬガイドラインを踏まえたすべての学習者のニーズにあった教育を作る枠組みとする手順を提案することができたが，その効果検証は必ずしも十分ではない。今後，「学びのユニバーサル・デザイン（ＵＤＬ）」の考え方に基づく授業作りを継続的に行っていく中で，子ども達に多様な学びが生じ，自分に合った学び方を獲得してきているかといった子ども側の変化の検証だけでなく，教師側の変化として，授業や単元の目標達成に向けた子ども達の多様な学び方を教師がいかに予測できるか，さらにはその予測に基づいた授業設計をできるかといった視点での効果検証を行っていく必要がある。２点目としては，教育活動全体を通じた児童生徒への障害者理解における実践の検証である。拠点校である群馬大学教育学部附属小学校は，附属特別支援学校と校舎・校庭を共有しているため，子どもたちは，日常的な関わり合いの他，計画的な交流及び共同学習を実施できたことは大きな成果ではあったが，その実践の効果検証は必ずしも十分ではない。すでに，附属小学校の児童に対して，附属特別支援学校の児童生徒への意識調査をアンケートとして実施しているが，今後，その調査結果の分析とその分析に基づいた実践の見直しを実施していく予定である。

7．問い合わせ先

組織名：国立大学法人群馬大学教育学部

(1) 担当部署　子ども総合サポートセンター

(2) 所在地　群馬県前橋市若宮町２－８－１

(3) 電話番号　027-231-2808

(4) FAX 番号　027-231-2808

(5) メールアドレス　kk-kyoiku1@jimu.gunma-u.ac.jp